修理依頼書別紙

1. 故障の状況

2012年頃(設置後9年)より、出力が年間4～5%低下するようになり、現在は設置時に比べて15%低下し、今後も更に低下する兆候がある。

1. 発電出力評価
2. 別添グラフ「年乖離度」のとおり。評価の基準の違いで3本のグラフがある。全天日射量(つくば)を基準として評価した。(緑色)
3. 全天日射量(つくば)基準のグラフは、最初の1年間のデータから直近1年間のデータが、どれだけ変化(乖離)したかを表現したものである。
4. 現在は設置時に比べて約15%低下しているが、過去の直近1年間のデータを用いていることと、グラフの傾きが右肩下がりが継続しているため、現時点で15%をさらに下回っている可能性がある。
5. 2011/12から2014/6の傾きで今後を予測すると3年後の2017年には乖離率-30%に達し、2003年に行った太陽光発電に対する投資回収は困難となる。
6. ソーラークリニック基準(我孫子、青色)でも傾向は同様である。<http://www.jyuri.co.jp/solarclinic/>
7. 産総研基準は2012年3月以降データが提供されない。
8. グラフのデータは、<http://homepage3.nifty.com/sakuracoco/kairido.xlsx>
9. 参考図書等
10. 太陽光発電システムの不具合事例ファイル　日刊工業新聞社　加藤和彦著
11. 産業技術総合研究所　加藤和彦博士講演<https://www.youtube.com/watch?v=C6HQSjfKwB0&noredirect=>